

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
C-210	C-500	23-331	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)			
Gut-Liver-Brain Axis and Alcohol Use Disorder: Treatment Potential of Fecal Microbiota Transplantation. 腸-肝-脳軸とアルコール使用障害：糞便微生物移植の治療可能性			
執筆者			
Wolstenholme JT(1)(2), Duong NK(3)(4), Brocato ER(2), Bajaj JS(3)(4).			
掲載誌			
Alcohol Res. 2024 Feb 1;44(1):01. doi: 10.35946/arcr.v44.1.01. eCollection 2024.			
キーワード		PMID	
アルコール使用障害、アルコール性肝疾患、腸-肝-脳軸、便微生物叢移植		38322428	
要旨			
<p>目的：慢性アルコール使用は肝障害と死亡の主な原因である。米国では、アルコール使用障害（AUD）に対する薬物療法の利用が少ないのは、AUD に対する医療者の知識不足や処方への安心感の欠如など複数の要因がある。アルコール摂取は腸内細菌叢に直接的な影響を及ぼし、細菌の多様性を変化させ、細菌の過剰増殖につながる。アルコールが腸内細菌叢に及ぼす影響が、アルコール摂取の増加やアルコール関連肝疾患（ALD）の進行に関与している可能性を示唆するエビデンスが増加している。本稿では、アルコールに関連した肝臓、腸、脳の変化を改善し、行動の変化をもたらす便中微生物叢移植（FMT）の役割を検討したヒトおよび前臨床研究についてレビューし、FMT の治療可能性についても述べる。検索語には「便微生物叢移植」および「アルコール」を用いた。</p> <p>検索結果：文献検索の結果のほとんどは総説または非アルコール性脂肪肝疾患に関する論文であり、これらは除外された。残りの経験的原稿のうち、飲酒または関連行動に対する FMT の効果を直接調査している臨床研究または前臨床研究を記述しているものはごくわずかであった。最終的に、16 件の研究がレビューに含まれた：文献検索により、ALD または飲酒および関連行動に対する FMT の効果を直接的に調査した研究はわずかであった。これらの知見は、アルコールが腸内細菌叢を変化させる可能性があること、またヒトとげっ歯類の間で細菌叢を移行させ、アルコール使用の増加に頻繁に関連する情動行動を変化させる可能性があることを示している。他の研究では、FMT やその他のプロバイオティクスの補充が、ALD や飲酒に関連する症状の一部を緩和する可能性が示されている。</p>			